



・ 注 意 事 項 ・

- 1 空欄を埋めてください。(記入方法は自由です。)
- 2 分からない場合には、「教本」を見ながら空欄を埋めてください。
- 3 「教本」を見て空欄を埋めた場合には、声に出して読んでください。

事前講習に来られるまでに、交通誘導警備業務2級検定の教本をできるだけ多く、繰り返し、読んでください。

学科は、教本の予習・復習が重要です。

この事前課題は、受講生がより多く教本を読む・見る・覚えるための機会を増やす事を目的に教本全体を対象として作成しています。

上記目的の課題ですので、特別講習の試験問題とは関係ありません。

この事前課題だけで学科試験は大丈夫というものではありませんので、しっかりと教本全体を繰り返し読んでください。

- ・ 学科試験は、五枝択一式の60分間で問題数は20問です。
- ・ 90%以上で合格です。
- ・ 実技は、6科目で100点になり90%以上で合格になります。
- ・ 文言などをしっかり覚えてきてください。

1. 「警備業務」とは、に依じて、人の生命、身体、財産等に対する危害の発生を警戒し、防止する業務をいいます。
2. ひとたび警備員の誘導ミスを原因とする交通事故が発生すると、社会に大きな
3. 警備業務が、公的権限を行使し得る警察業務とは本質的に
4. 警備員の行う交通誘導警備業務は、道路交通法の規定により警察官等が行う交通整理のような
5. 警備業者は、その警備員に対して専門的なを行う義務がある
6. 検定の行われている種別は雑踏警備業務の種別です
7. 1級は当該警備現場におけるとしての役割 2級は当該警備現場におけるの役割が期待される
8. 警備業法の第2条第1項第1号業務にはがあり 第2条第1項第2号業務には雑踏警備業務 がある
9. 警備員とは警備業者の使用人その他の従業者でものをいい、警備業務以外の業務に従事する者や営業のみに従事する者は、警備員には
10. 警備業者及び警備員は、警備業務を行うに当たっては、内閣府令で定めるに基づいて定められた制服と色、型式又は標章により、明確に識別することができる服装を用いなければなりません
11. 基本的人権の公共の福祉による制約の程度は、それぞれの自由及び権利の性格によって
12. 正当防衛の「急迫」とは、将来侵害されるおそれがあるだけの場合や、既に侵害が終わってしまった場合には、正当防衛は
13. 緊急避難の要件に当てはまる場合でも、業務の性質上、危難に立ち向かうべき義務のある者は、一般人と同じようにをすることは許されません
14. 現行犯逮捕の「罪」とは、特定の罪(例えば、窃盗、傷害等)を指します。したがって、単なるであって、何らかの罪を犯している疑いがあるだけでは不十分であり、とはいえません。
15. 遺失物法の「遺失者」とは、物件の占有していた者をいい、当該物件の所有者のほか、物件を及び使用していた者等も
16. 道路交通法(第10条) 歩行者の通行方法
歩行者は歩道等と車道の道路ではことが定められており、これにより対面通行による安全確保が図られている

17. 道路交通法(第 12 条) 横断の方法において

「車両等の直前又は直後」とは、の車両等の直前・直後を指します

18. 道路交通法(第 17 条) 通行区分

歩道等と車道ので、車両が道路外の施設等に出入りする場合、一時的に歩道等を通行することになりますが、その場合の例外として歩道等の通行が認められています。ただし、歩道等のし歩行者の通行を妨げないようにしなければなりません

19. 道路交通法(第 25 条) 道路外に出る場合の方法

車両が道路外に出るために左折するとき、道路のと徐行義務を定めています。「徐行義務」とは、道路の場合についてのみ課せられたものではないので、車両は、左折又は右折を完了して道路外へ出るまでしなければなりません

20. 道路交通法(第 40 条) 緊急自動車の優先

交差点又はその付近において、緊急自動車が接近してきたときは、車両は交差点を避け、かつ、道路のに寄ってしなければなりません。また、交差点又はその付近以外の場所において緊急自動車が接近してきたは、車両は道路のに寄って、これに進路を譲らなければなりません

21. 主に高速自動車国道等において使用される資機材として、、発電機、車両、大型セフティコーン等があります

22. クッションドラム内には又は砂袋が入っており、に厚く設置することによって、車両等の衝撃時の衝撃を緩和することができます

23. 車線規制用標識車両は車両に対し、工事に伴う規制帯の明示や等を促すことを目的として使用するものです。車線規制用標識車両は、規制帯付近に設置されることが一般的です

24. 工事用信号機は公安委員会が法令によって設置するものとは、あくまでも道路工事等の施工業者がより安全を期すために任意に設置されるものです。一般的には、危険防止のため警備員の誘導とされています

25. 無線機の通話上の留意点として、マイクは、口からセンチメートル離して、大きさの声で話す。また、呼び出しに対する応答がないときは、いたずらに呼出しを繰り返すことなく、チャンネル、電源、音量等を

26. 車道規制時の設置要領として、交通流に側の保安用資機材は、隙間なく並べて仕切るが、（中央線上等）の保安用資機材は、適当な間隔を空けて配列してもよい

27. 歩行者用通路の設置要領として、保安柵やセフティコーン、コーンバー等によって、十分な幅員(通常[]メートルやむを得ない場合でも[]メートル以上)の歩行者用通路を確保する
28. 合図の方法の基本的留意事項では、交通誘導警備業務は、相手の[]な[]に基づいて行われるものであり、特別に権限を有する者のような指示や命令をすることがないようにする
29. 合図の方法の具体的留意事項では、走行中の車両の[]に出て停止を求めることは、極めて危険なので[]また、誘導となる車両の死角に入らないよう注意し、常に運転者から警備員の存在が[]で誘導する
30. 警笛の使用方法では、[]歩行者や車両等に対しては、周囲の状況からみて、そのまま進行を継続させることが[]判断される場合に限り、[]して吹鳴し、停止を促す
31. 合図実施のための位置の選定では、歩行者や[]から警備員自身の存在が[]に確認でき、警備員からも周辺の交通状況を[]位置で行う
32. 合図実施中における受傷事故の防止の基本的事項では、夜間の交通誘導警備業務は[]夜光チョッキを着用し、照度の十分な誘導灯を使用する。また、交通誘導警備業務用資機材は、[]もの又は反射装置を施したものを使用する
33. 警備員はその業務の性格上、事件や事故に遭遇した場合に、周囲の人たちから[]かつ迅速な連絡を行えることが期待されています。緊急事案発生時の連絡の適否は、その後の事件や事故等の推移に[]を与える
34. 一次救命処置はAEDや感染防護具などの器具を用いて行いますが、特別な[]誰でも行うことができます
35. 呼吸を確認するには、胸と腹部が上下に動いているかを[]秒以内で目視して行います。動いてない場合は、約[]秒かけても判断に迷う場合は、呼吸がないものと判断します
36. 反応がなくなった負傷者を[]にしておくと、嘔吐した場合に気道が詰まり窒息するおそれがあるので、嘔吐物が自然に流れ出るように、負傷者が[]を向く姿勢をとらせます。このときの姿勢を「回復体位」といいます
37. 「熱中症」とは、室温や気温が[]で、体内の水分や塩分などの[]が崩れ、体温の調節機能が働かなくなり、体温上昇、めまい、体のだるさ、ひどいときには、けいれんや意識の異常など、様々な症状を起こします

- 38.護身術というと、各種の格闘技、武道、武術等を思い浮かべ、相手を制圧することをイメージします。しかしながら、「護身術」とは[]ことであり、相手を制圧、撃退する[]せん。危険な状況を作らないこと、危険な状況からいち早く遠ざかり身の安全を確保することなど、[]護身術であるといえます。
- 39.護身術の留意事項・犯人と向かい合ったときは[]をとる
- 40.護身用具を使用する場合は、[]の適用範囲内にとどめるよう配意する。また、護身用具を使用する場合は[]の部位を打つなど、相手に与える打撃は[]とするよう心がける
- 41.護身用具を盗まれたり、[]や破損したりすることのないよう[]管理について十分に注意する
- 42.徒手による護身術の右の構えとは、より強く相手に不信感等を感じたときに斜に構える体勢で、基本の姿勢から[]を約半歩[]進め、左かかとをやや内側にずらし、両腕は自然に垂らし、相手を注視します
- 43.消火器の使用方法是 1.安全栓を抜く 2.[] 3.レバーを握る の順である
- 44.「警備員の行う現場保存」とは、犯罪や事故の現場を[]で保存することにより、警察官の採証活動に協力する活動です
- 45.現場保存では、現場を中心に、できる限り[]範囲を保存する。又保存範囲への立ち入りは、[]であっても[]
- 46.護身用具を携帯していないときであっても自分の身は自分で守れるように、常日頃から徒手で行う護身術を[]し体得しておく必要があります
- 47.緊急自動車の優先において、[]又はその付近において、その道路が[]となっている道路においてその[]寄ることが緊急自動車の通行を妨げることとなる場合にあっては、道路の[]に寄って[]しなければなりません
- 48.[]で拾得した場合は、遺失者又は警察署長に[]以内に返還又は提出した場合には、保管費・報労金等を請求する権利があり、遺失者に返還後、[]以内に請求しないと権利を失う
- 49.検定は、[]公安委員会が行う学科試験及び実技試験を受験する方法と、[]公安委員会の登録をうけた者が行う講習会を受講し、その課程を[]して、[]公安委員会が行う学科試験及び実技試験を免除される方法があります
- 50.徒手による護身術における[]とは、不審者に対して声かけを行うときなどに使用し、万が一襲われても[]できる体制です

- 51.止血の方法は、を基本とします。「」とは、出血している傷口の上に直接布切れやハンカチ、ガーゼなどを当てて圧迫する方法です
- 52.「工事予告」標示板は、原則として、工事現場の手前からの道路上の（中央線側の工事の場合は中央線側に設置することもある）に設置する
- 53.交通誘導警備業務は、でなく、一般の歩行者や車両をもその対象としていることから、ひとたび警備員のを原因とする交通事故が発生すると、社会にを及ぼします
- 54.合格証明書が交付されない者には、の者、合格証明書の返納を命ぜられた日から起算してを経過しない者 が該当する
- 55.「交通整理のおこなわれていない交差点」とは、信号機の表示する信号、警察官等のによる交通整理が交差点のことをいいます
- 56.胸骨圧迫は、胸骨のに手のひらの下の部分を当て、その手の上にもう一方の手を重ねる
- 57.走行中に目の前に障害物が現れたら、の運転者はにハンドルをその障害物を避けようとします
- 58.進行の合図は、手旗等を進行方向に振りながら、短音（約秒間、大旗の場合は約秒間）を吹鳴する
- 59.合図実施中における受傷事故は、車両やとの接触事故のほか、転倒やなどの受傷事故が発生しています
- 60.後進誘導を行う位置は、原則として、車両の側面から以上、車両後部から離れた位置で、サイドミラー等で運転者から位置で行います
- 61.「後ろさばき」とは、となり、をに引くと同時に、足をやや引き付けるようにして体を右に開くとともに、手刀で相手の前腕を打ち払い、突きの軌道を逸らし、身構えます
- 62.「一次救命処置」には、（胸骨圧迫や人工呼吸）、（AEDによる電気ショック）（口の中の物を取り除く）がある
- 63.横断歩道のない交差点に歩行者の優先で、「交差点の直近」とは、交差点の付近よりも近い距離にあることであり、おおむねないしメートル以内をいいます
- 64.憲法では「何人も、を除いては、権限を有するが発し、且つ理由となつてゐる犯罪を明示するによらなければ、逮捕されない」と不法の逮捕を受けない権利について定めています

65. 道路交通法の目的とは、道路における[]を防止し、その他交通の安全を図ること・交通の円滑を図ること・道路の交通に起因する[]の防止に資することである
66. 誘導ロボットは、主に[]等で、通行車両に[]するものとして使用されます。最近では様々な種類がありますが、人型ロボットのスイングする片腕に誘導灯や旗などが装着され、車両に対し[]や徐行を促すものなどがあります。規制帯[]側の導流帯の[]地点付近に設置されることが一般的です
67. 合図実施中の受傷事故の防止の基本的事項では、合図を受ける対象車両から[]、警備員から[]、機敏に動くことができる安全な位置を選定する
68. []より[]を心がけた通報が行えるよう日頃から訓練しておく必要があります
69. 基本動作における「休め」は、その場で[]足を約[]センチメートル(両かかとの内側を結ぶ最短距離)横に開き、体重は[]足にかける
70. []公安委員会は、公共の安全維持の観点から[]公安委員会規則を定めて、護身用具の携帯を禁止又は[]ことができます。また、その警備業務開始の[]までは[]公安委員会に届け出ることが義務付けられています
71. 交差点において右折しようとする車両等は、交差点に入った時点の前後を[]、その交差点において直進し、又は左折しようとする車両等の進行[]をしてはなりません
72. 憲法では、「労働者の団結する権利及び団体交渉その他の団体行動をする権利は、これを保障する。」と定め、団結権、団体交渉権、[]の労働三権といわれる労働基本権を[]しています
73. 熱中症の予防及び対策では、交通誘導警備員は[]労働環境にあり、近年の気温[]により熱中症による[]事故も発生していますので、予防及び対策が必要です
74. 各種事案の通報においては、あわてて[]に話すと正確に伝わらないうえ、時間もかかります。自分だけで[]とせず、落ち着いてきかれたことに正確に答えるのがよい方法です
75. []公安委員会は、警備業務の実施の適正を図るため、その種別に応じ、警備員又は[]者について、その知識及び能力に関する検定を行い、合格した者に対し、種別ごとに[]を交付します
76. 交通誘導警備業務は、[]で行われることが多いため、社会全般の安全に[]しています

77. 回転灯、回転警告灯は、車両に対し、が行われていることを知らせ、ことを目的として使用されるものです。一般的にの回転灯が使用されていますが、等では赤色系で大型の回転警告灯が使用されることがあります
78. による幅寄せの合図は、体を車両に対して、にする。警備員から見て左に寄せる場合は、右手にを持ち頭上やや右前方に上げ、車両を注視しながら、に向かって振る
79. 警察に 110 番通報すべき事案のうち、警備員が遭遇することが予想される主な事案には、が発生したとき、けんかをしているのを目撃したり、暴力や暴言で他人に迷惑をかけているのを目撃したとき、刃物などの凶器を持っているのを目撃したとき、や車両を目撃したとき、資機材置場などから他人の財物を盗んでいるのを目撃したとき、街路灯に投石したり、器物を損壊したりしているのを目撃したとき がある
80. 粉末消火器の使用上の留意点では、でしようする場合は、風による消火剤の飛散を防止するためから放射する
81. 施設において物件を拾得した場合は、速やかにに交付する
82. 憲法では、基本的人権の保障をするとともに、固有普遍性とという性格を明らかにしています
83. 節度ある礼式は、警備員の心を規律ある職場を形作るとともに警備員に対するを高めるものです
84. 誘導灯は、主に時に使用することが多く、地域によっては昼間に使用することもあります。一本の誘導灯で赤旗、の役目をさせるため、、反対の素手によって合図の補足をしたりする必要もあります
85. は、相手からの攻撃を防ぎ受傷事故を防ぐためのものです。的確に応じられるようにを行い体得する必要があります
86. 急変した負傷者を救命し、させるために必要な一連な行いを
」といいます
87. の合図や不必要な動作は、相手をさせるだけでなく、合図として正確にので、動作及び警笛の吹鳴は、通りに行く
88. 正当防衛において、「不正」とは、と同意です。したがって、正当防衛行為に対しを行うことはできません
89. 警備業務対象施設内等において、不審な人物を発見した場合は、施設管理権に基づき、範囲内で質問等を行えるだけであり、警察官が行う職務質問のようなはありません
90. 心肺蘇生やAEDの使用を素早く行うことで、生存率やが